

# NJ素流協 News

平成25年9月30日  
第105号

平成25年9月30日発行・発行所 ノースジャパン素材流通協同組合 〒020-0024 盛岡市菜園1丁目3-6 (農林会館5階)  
TEL 019(652)7227 / FAX 019(654)8533 / <http://www.soryukyo.or.jp/index.html>

## 主要木材の需給 見通しを発表

(平成25年第4四半期  
及び平成26年第1四半期)

林野庁は、9月25日に平成25年度第2回木材需給会議を開催し、「主要木材の需給見通し(平成25年第4四半期及び平成26年第1四半期)」を公表した。なお第4四半期は10月から12月、第1四半期は1月から3月を示す。

### 1 経済情勢等

今年度の実質GDP(国内総生産)成長率は、公共投資や消費税率引き上げ前の駆け込み需要等が発生していることから、2・3%と高めの成長が見込まれている。新設住宅着工戸数は、住宅市場の先高感や、消費税率引き上げ前の駆け込み需要等により増加しており、昨年度比10%増の98万戸と予想されている。

### 2 主要木材需給動向

#### (1) 丸太

国産製材用丸太の工場入荷量は、住宅着工戸数の伸びによる需要の増加、

木材利用ポイント事業による国産材需要への期待から、前年同期に比べ、25年第4四半期は約8%、26年第1四半期は約4%といずれも増加する見通し。国産合板用丸太についても、着工戸数増や木材利用ポイント効果に加え、円安による国産材の優位性、合板業界の国産材へのシフトの進展などから、前年同期比で25年第4四半期は約8%、26年第1四半期は約9%増加する見通しである。

輸入丸太の需要については、米材については25年第4四半期は国産材同様高い水準で推移すると見られるが、26年第1四半期は前年同期よりやや減少する見通し。ニュージラランド・チリ材については、輸出の増加により梱包資材の需要が伸びると予想されることから、前年同期より伸びると見られる。一方、南洋材、北洋材については減少傾向が続くと見られる。

#### (2) 合板・構造用集成材

国内製造合板の需要については、住宅着工戸数の増加から、前年同期と同程度の高い水準で推移する

と見られている。輸入合板についても、同じくマンション、住宅向け型枠用合板やフローリング用台板の需要により、高水準となると見られる。国内製造構造用集成材の需要については前年同期並み、輸入集成材は25年第4四半期は高い水準となるが、26年第1四半期からは国内の在庫状況等を受けて、低い水準となる見通し。

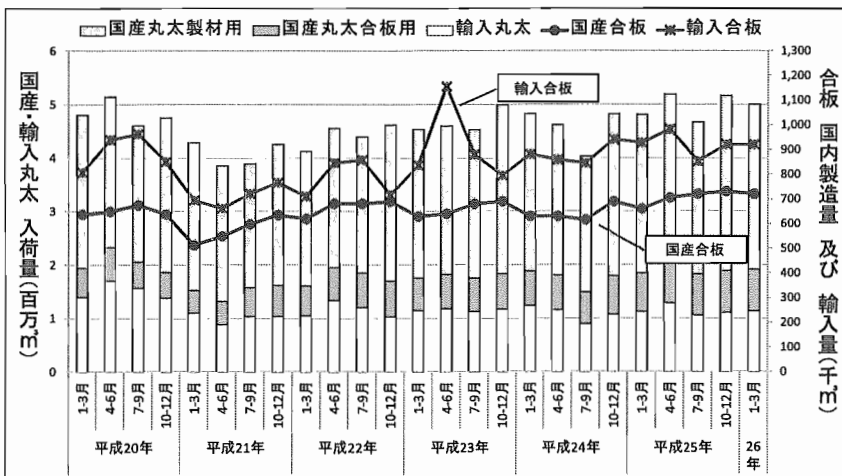


図 丸太入荷量の推移(H25年第3四半期以降は見込み)

**「山林素地及び山元立木価格調」  
平成25年3月末現在から**

（財）日本不動産研究所は、平成25年3月末現在における都道府県別林地価格及び立木価格の調査結果を公表した。このうち青森県、岩手県、岩手県を全国平均と比較した。

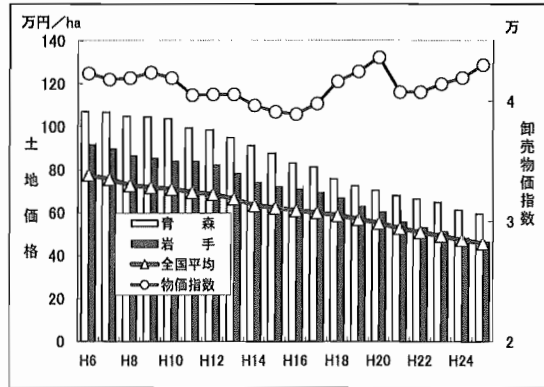


図1 林地価格と卸売物価指数の動向

昭和15年を100とした日銀卸売物価指数は平成25年3月末現在42979である。平成16年までは下落傾向、その後20年まで高騰傾向を示したが、同年秋のリーマン・ショックの影響により21年に急

落、その後上昇に転じ平成25年にはリーマン・ショック前の水準にまで戻している。

用材林の林地価格は、全国平均、青森県、岩手県の全てにおいて直線的に下落を続けており、物価指数が23年に上昇に転じてても下落は止まっていない。25年3月末の岩手県の林地価格は、全国平均とほぼ同水準の、ヘクタール当たり46279円となった。

**▽スギ立木価格（図2）**

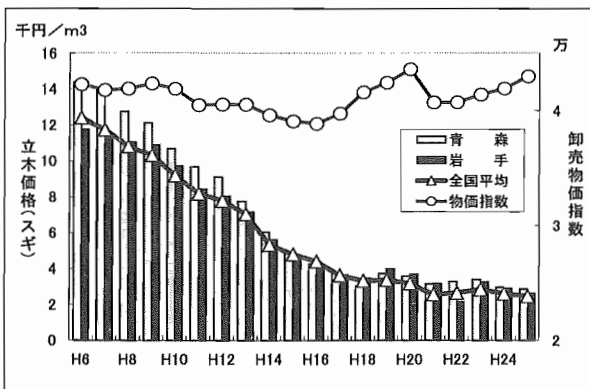


図2 スギ立木と林地価格と卸売物価指数の動向

スギの立木価格は、平成16年までの卸売物価指数の下落傾向より

も急激な割合で下落を続けており、25年3月末は、青森県では過去最低レベルの立方メートル当たり2855円、岩手県では最低であった22年の2159円よりやや戻して、立方メートル当たり2617円となっている。

**トピックス**

**児童生徒がコンテナ苗植林体験**



平成25年9月24日、洋野町中野地区の山林において、久慈地方木材青壮年協議会（大粒来仁孝会長）の主催により、洋野町立中野小学

校の児童生徒48名が、カラマツコナテナ苗の植林体験を行った。

これは、N J素流協が平成22年度から実施しているフォレスト再生モデル実証事業の一環として行われたもので、組合員である(有)丸大県北農林が植林箇所の伐採・地帯えを行った。

コンテナ苗は、専用の道具で細長い植え穴を掘り、培養土ごと苗木を植え踏みつければよいので、小学生でも簡単に作業することができる。参加した子供たちは、1本ずつ丁寧に苗木を植え、木を伐つた後に植林し、育てることの大切さを学んでいた。



**木質バイオマス円卓会議で  
高橋常務理事が講演**

9月18日、盛岡市の(株)森林総合研究所東北支所で第25回木質バイオマス円卓会議が開催され、当NJ素流協の高橋常務理事が、「NJ素流協の取り組み 過去〜現在〜未来」と題して講演した。

設立から10年、順調に事業規模を拡大してきたところで東日本大地震を経験した。その後の対応と、今後の木質バイオマスなど新しい事業への展望について述べた。

**第192回木勉会  
「(株)オノダが木材供給で目指すこと」〜小野田社長講演**

11日、奥州市の(株)オノダで開催された第192回木勉会では、代表取締役社長小野田富男氏が、同社の創業から現在に至る沿革と、最新鋭のチップセンター製材機、人工乾燥機等を導入し、山林経営から製材、乾燥、プレカット、住宅の建設まで、地域材を活用するための一貫体制を整えてきた取り組みを語った。

た。

同社は先々代が大正8年に当時の水沢町で材木商を営んだのが始まり。第二次世界大戦後の復興需要で木材が不足し、輸入材の取扱が始まったことで、大船渡港木工団地に組合の製材工場を構えた。東京オリンピックの頃は活況を呈したが、オイルショック後、景気の落ち込みで多くの工場が閉鎖し、組合も解散した。一方アメリカやヨーロッパの木材加工事情の視察を通じて、木材の乾燥の重要性を認識、乾燥設備の充実に努めてきた。また工場の木屑を乾燥用熱源とする木質バイオマス利用を進めてきた。現在は地域材を高度に利用し、かつ室内気候を快適に保つ住宅「恵森(けいしん)」を提案、「国産材によるゼロエネルギー住宅」により、地域と産業の活性化を目指している。

**アメリカ製木材破砕機を  
見学〜先進的林业機械緊急  
実証・普及事業**

秋田県仙北市の(有)門脇木材は、平成24年度補正林野庁補助事業「先進的林业機械緊急実証・普及事業」

によりアメリカ製木材破砕機を導入、4日仙北市において破砕の実演を行った。同補助事業は、地域の実情に応じた規模での機械及び作業システムの実証と、林業事業体が機械メーカー等と連携・協力し新たに開発・改良した、先進的林业機械の導入と実証を行うもの。

開発〜実証〜普及の3つの段階を通して、地域の関係者と現地検討会を開催することが求められており、今回の実演会は第2回運営委員会として開催された。門脇木材では、既存の破砕機に、必要に見合う品質のチップの製造と現場作業に適するような改造を加えたいので、チップ生産の作業仕組みの実証を行っている。たざわこ芸術村会議場において、同社役員と、同事業事務局の(株)自然産業研究所及び機械の販売代理店職員がそれぞれ進捗状況の報告を行った後、近くに用意された土場へ移動して木材破砕の実演を見学した。機械本体の改良の効果を確かめるとともに、製品の輸送に関して、従来

産廃輸送に用いられてきた「フックロール(アームロールとも)」式コンテナ車を活用し、土場に下ろしたコンテナに直接チップを投入する作業方式を実演した。



土場での破砕実演の様子

終了後再び会議場に戻り、実演の結果を踏まえた質疑応答と意見交換を行った。

**青森県森林整備事業協同  
組合がCPD研修を実施**

3日青森市のおおもり国際ホテルにおいて、同組合主催でCPD研修を実施し、東京大学大学院酒井教授や青森大学田村教授の講演等が行われた。

# 今月の名木・巨木 16 (十和田市)

国指定天然記念物

## 法量のイチヨウ

指定：1926年10月20日

所在：青森県十和田市法量字銀杏木



十和田市中心部から十和田湖方面に向かい国道102号線を西に進むと、十和田市法量、その名も「銀杏木」地区に到着する。国道沿いの駐車場に車を停め、向側の案内板から数分歩くと、国指定天然記念物「法量のイチヨウ」が姿を現す。

指定は1926（大正15）年10

月と古く、当時の内務省が全国から5本のイチヨウを選び、国の天然記念物に指定したうちの1本である。推定樹齢1100年、樹高約32メートル、幹周り14・5メートル（現地案内板より）の巨木は、環境省による2000（平成12）年の調査では、イチヨウの部で全国第4位にランクされている。

イチヨウは中国原産の落葉高木で、大木では気根と呼ばれる突起が生じることがある。法量のイチヨウ



法量のイチヨウの気根

ウは古くは「乳イチヨウ」と呼ばれ、母乳の出ない女性たちの信仰を集めたという。

日本に渡った時期は不明であるが、寺院に植えられることが多いため、仏教の伝来とともに、僧侶によって持ち込まれたとする説がある。

法量のイチヨウも十和田湖伝説の修行僧、南祖坊なんそぼうの手植えとする説がある。南祖坊は十和田湖の主、

八郎太郎との戦いに勝利したと伝えられ、この地を追われた八郎太郎は、後に八郎瀧の主となったという。伝説のスケールの大きさに負けない迫力のある巨木である。

### 冗談欄

## 「百円ライターは1個だけ」

一時ほど喫煙による害が叫ばれなくなったためか、この頃復煙者が増えているような気がする。

そのような人は、これまで禁煙者として名が通っているのに、大っぴらには吸えずに隠れて吸ういわゆる「隠れ喫煙者」が多い。

以下、隠れ喫煙が思わぬところでバレタ話である。

旅行で飛行機に乗るため、搭乗口の金属探知機を通ったらブザーが鳴った。百円ライターがあると叫ばれ差し出した。これで無事通過と思っただけで、今度はカバンでもブザーが鳴った。

ライターらしきものがあるので見せてくれと言う。ライターを取出してもう一度通したら、また鳴った。

まだ、あるようだと言われ、カバンの底の方を探したらライターが出て

きた。これも差し出したが、それでも鳴った。カバンの中から計4個のライターが見つかる羽目となった。

1個だけは良いと言うことで、1個だけをカバンに入れ、4個を没収されたのである。

この空港の出来事で喫煙がばれてしまった、という落ちである。

喫煙や復煙は簡単であるが、禁煙は難しいようで、色々の禁煙方法が言われている。その一つに周囲の人々に禁煙宣言をする、特に、頭のあがらないような人に宣言することが良いというのがある。

奥さんに宣言するのが最も効果があるようだが、破ったときには悲劇である。家には入れて貰えないし、小遣い削減という兵糧攻めに遭いかねないのである。

平成25年9月分の販売実績

- 1 合板用出荷量を前月と比較すると、スギが約870m<sup>3</sup>増加、カラマツが約800m<sup>3</sup>増加、アカマツが約1,130m<sup>3</sup>増加し、全体では約3,070m<sup>3</sup>増加している。昨年同月と比較すると、スギが約3,400m<sup>3</sup>増加、カラマツが約240m<sup>3</sup>減少、アカマツが約1,320m<sup>3</sup>増加し、全体では約4,850m<sup>3</sup>増加している。今月のシステム販売取扱はなかった。
- 2 その他(合板用以外)の出荷量は前月より約100m<sup>3</sup>減少、昨年同月より約80m<sup>3</sup>増加している。
- 3 今年度の年間計画量258,000m<sup>3</sup>に対する出荷量の割合(目標達成率)を50%とすると、今年度の全体出荷実績は、計画数量を6.3ポイント下回る結果となった。

(m<sup>3</sup>)

樹種	長級(m)	当 月 出 荷 量			今 年 度 累 計			
		合板用	そ の 他 材 用 等	計	合板用	樹 種 別 割 合 (%)	そ の 他 材 用 等	計
スギ	2.0	4,397			22,686			
	4.0	2,384			12,449			
	計	6,781	2,202	8,983	35,135	41.3	17,211	52,346
カラマツ	2.0	3,994			22,754			
	4.0	1,106			8,604			
	計	5,100	284	5,384	(739) 31,359	36.8	4,535	(739) 35,894
アカマツ	2.0	1,635			12,995			
	4.0	1,383			3,288			
	計	3,018	253	3,271	16,282	19.1	2,113	18,396
その他針葉樹		770	1,214	1,984	2,392	2.8	3,542	5,935
広葉樹		0	44	44	0	0.0	300	300
合計		15,669	3,996	19,665	(739) 85,168	100.0	27,703	(739) 112,871
目標達成率 (%)								43.7
計画数量								258,000

( ) はシステム販売取扱量 (内数)

落穂拾い

「この世にし 楽しくあらば 来む世には 虫に鳥にも 我はなりなむ」  
 この歌の作者は、万葉歌人として名高い「大伴旅人」です。「楽しくあらば」とは、何を楽しむのでしょうか。実は「酒を楽しむのです。この歌は、「大宰帥大伴卿酒を讀むる歌十三首」のうちの一首であり、旅人は無類の酒好きで、盛んに飲酒を称揚したといわれております。歌意は、「この世で酒を飲んで楽しかったら、もうそれでいい。あの世に行ったら虫になってやっても、鳥になってやってもいい(あの世に行ったらもうなんでもいいわ)」と言うのであります。ちょっと凄じい歌ではあります。

「素流協ニュース」の第98号の当欄

に、大伴家持の歌を引用しておりますが、家持は上記の旅人の子供であり、彼もまた万葉歌人で、三十六歌仙に挙げられております名高い歌人でありますが、父親のような無類の酒好きであったかどうかは寡聞にして判りません。ただ、彼の歌「なでしこが 花見ること」に 娘(むすめ)らが 笑まひのほひ思ほゆるかも(庭に咲く なでしこの花を見るたびに あの娘の 笑顔の生き生きとした美しさが 思われてならない)から想像するに、父親のような大酒飲みではなかったように感じます。

それはそれとして、落穂拾い子も無類のとまでは言いませんが、結構な愛飲家と自負しております。春夏秋冬・四季を通じ、何らかの理由をつくって酒を楽しんでおりますが、秋季の酒には格別のものがあります。月を仰ぎ、萩の花を眺め、頬に秋風を感じての一献には無上のものがあります。それに酒は、わが身に何となく物悲しい感傷が入り込み、老骨の身にとっては、人生を振り返ったり喜怒哀楽を感じる媒介として大切なものになっています。

とは言っても、大伴旅人大先生の「来む世には 虫に鳥にも 我はなりなむ」の境地には至りません。凡人は凡人なの酒を楽しみむしかないか。